



西浦田楽の面

遠江・山と里の民俗

会報 第004号

無形民俗文化財の可能性

浜松市文化財課 課長 太田好治

連絡会のみなさまのご活躍で、浜松市内外での無形民俗文化財の交流が深まってきています。広域となった浜松市で始まった連絡会の結成が、三遠南信地域での連携を深めていく気配です。

みなさまが継承している民俗文化財は、早くから全国的に注目されてきました。ご存知のように柳田國男、折口信夫、宮本常一など日本民俗学を代表する研究者がこの地域に取材し、そのすばらしさを全国に広めました。みなさまのご先代は、直接その記憶をお持ちだと拝察いたします。さらに外国からの評価もあり、例えば大念仏の再興にはスタール博士の講演も大きかったかと存じております。

最近では、日本の自然観や精霊感を再認識しようと、大学での「日本的なもの」民俗文化財の研究が深まっています。中には日本の深い精神性を学ぼうとする外国人研究者や留学生も目立つと聞きます。実は、クールジャパンを代表するアニメにも反映されて、私たちが思う以上に、世

界の注目を集めています。例えば、三遠南信に伝わる祭礼には、数多くの仮面が使用されています。これらを身に付けて舞われるご当代は、代々その仮面を着けてきた先祖といっしょに舞われるのだと聞きました。

浜松市は昨秋、ユネスコ創造都市ネットワークのうち、音楽部門にアジアで初めて加盟しました。浜松の音楽の素地には大きな広がりがありますが、

むしろ日本的な・アジア的な特色にも着目されることでしょう。地域の民俗文化財における音楽や所作の意味をきちんとご案内できれば、ますます世界からの注目を集める歴史資源となるに違いありません。地域に根差した伝統文化が、新たな文化を創出する好例となっています。



横山八幡神社に残る面



懐山あくないの面

文化財課は、これからもみなさまの祭礼の意味を広くご紹介し、貴重な祭礼の維持継承につながるようにご支援させていただきます。

今田の花の舞

除魔息災・福授・五穀豊穰を願う
伝統の湯立神楽。



御湯深(くがたち)

今田では、「一ノ宮神社」と「二ノ宮神社」を一年交代で「花の舞」が奉納される。今回(11月8日)は一ノ宮神社が祭りの会場になっていた。神々を招請し、御湯を捧げ命の再生復活(生まれ清まり)をはかるものと云われている。樂は太鼓のみで笛など樂器はなく特徴的なところは、舞の途中で「御湯深」(くがたち)といわれる神事が入ること。煮えたぎる釜の湯を素手で撥ねて、湯釜の上に集う神々に湯を献じる。



おにめん

滝沢のおくない

元旦から行う伝統行事(元旦・四日)

滝沢町は、旧浜松市の最北に位置する二百戸ほどの集落である。標高三百五十メートルの滝沢展望台は、天気の良い日は天竜川や遠く遠州灘まで見渡せる。シウチ神事、シートー祭り、揉み飯祭り、平治祭りなどを総称して「滝沢のおくない」と呼ぶ、この一連の正月神事は四所神社と林慶寺で行われている。十八世紀末に書かれた『遠江国風土記伝』によると、古く滝沢には安楽寺という大きなお寺があったが、戦国時代に焼失し、



みそぎ



もみ飯祭り

天明年間(一七八一〜一七八八)に大日堂が再建されたと記録されている。滝沢の正月行事は本来、この大日堂で行なわれていたが、明治の神仏分離令によって大日如来は林慶寺に移され、シウチ神事とシートー祭りは大日堂を社殿にした四所神社で、揉み飯祭りと平治祭りなどは林慶寺で行われるようになった。現在は神社の元旦祭にあわせ元旦十時から四所神社でシウチ神事とシートー祭りが行われ、



おくないの七草がゆ



平治祭り

四日には林慶寺で午前中に揉み飯祭りが、午後には平治祭りと、二回目シウチ神事とシートー祭りが行われている。さかのぼる限りシウチ神事とシートー祭りは、元旦に行われていたが、昭和四十年代まで揉み飯祭りは一月六日の夜、平治祭りは一月七日午前に行われていた。また、これらの祭りは、大楠宜、小楠宜と呼ばれる世襲の神役と、大世話人、小世話人と呼ばれる若い衆によって伝えられてきた。



シウチ神事



シートー祭り

ひやくまんべん 百万遍の念仏講 ねんぶつこう

浜松地域でも以前は何処でもあった百万遍の念仏は北区の細江町中川の観音堂で一月の中旬に行われている。

観音堂は、もともととは妙功庵と呼ばれたお寺で古くから念仏講が行われ、元禄年間（1688～1704）には特に盛んだった。また正徳二年（1712）に、刑部の住民から寄進された鰐口が伝えられている。

百万遍念仏は、地域の人々が集まり、お堂の中で車座に座り、長さ約八メートルの数珠を皆で回しながら念仏を唱え、一年の無事を祈ります。

今年度からは保存会が発足して地域全体で継承していくことになった。保存会として市の文化財の鰐口のレプリカを造り今回お披露目をした。その日も寒い日でしたがお堂の中は子ども達も含め皆で念仏を唱えていた。会場の外では甘酒とお餅が振舞われていた。



新しく掲げられた鰐口



車座で数珠を廻しながら念仏を唱える

百万遍念仏とは、自身の往生故人への追善、各種の祈禱を目的として念仏を百万回唱えること。

本来は、個人が念仏を七日間（もしくは十日間）のうちに百万回唱えることで目的が成就されるとされている。ただし、複数の人間が同時同音で念仏を唱えることにより互いの念仏の功德を融通することが出来る「融通念仏」とする考え方もある。

百万遍念仏と極楽往生を結びつけた最初の人物は唐の迦才であると言われている。日本にも平安時代に伝来され、浄土教の流行とともに盛んになった。

東久留女木の万歳楽

東久留女木の万歳楽には現在、芸能はないが、言い伝えによると、昔は舞や面もあったという。また、伽藍祭りや七十五膳、万歳楽、おぶっこめしといった行事から、他のひよんどり、おくないと同様におこない系の祭りであることは推測できる。



阿弥陀様に備えた枡形のおぶっこめし

芸能や面がいつ失われたのか記録はないが、大正十一年（1922）にお祭り自体をやめたところ、直後の三月四日、東久留女木の半数が焼失する大火に見舞われてしまった。村人はお祭りを止めたことで災いが起きたのではないかと心配し、翌年、祭りを復活して今に至っている。

神沢のおくない

「神澤おくない」は、万福寺阿弥陀堂で行われてきて、西神沢の石野禰宜家を中心にして、十四戸の宮子（宮講）と呼ぶ組織で営んできたが、途絶えてしまった。

地元の有志と共に中学生が、「神澤おくない」の再興に努力したことから、平成二十一年より復活することになった。今年も一月四日に清童中学校の生徒らと見事に演目をこなしていった。地元自治会との継承事業を立ち上げるのが目標である。



あぜ塗りをを披露する中学生



今回は禰宜（ねぎ）の仲井和一郎さんの孫が祭司を勤めた

清竜中学校の取り組み

昨年の11/25日の参観会に2年生による伝統芸能発表会が行われました。



芸能文化をつなぐ子ども達

- 遠州大念仏
- 神沢のおくない
- 懐山のおくない

各地域でのそれぞれのお祭りに参加しています。

これからの民俗芸能日程

呉松の大念仏 8月13、15日宿蘆寺（西区庄内町）

浦川歌舞伎 9月第4土曜日旭座（旧浦川中体育館）

遠州大念仏は、三方ヶ原の戦いの戦死者供養のため始まったといわれています。現在は、それぞれの組で独自の節回しや踊りが発達し、7月・8月の盆時期、市内の初盆宅で奉納供養が行われています。



■日時：7月15日夜
■場所：犀ヶ崖資料館前庭（中区鹿谷町）

遠州大念仏



■日時：5月5日午後6時～
■場所：犬居地内（天竜区春野町堀之内）

犬居つなん曳

犬居つなん曳は、犬居地区で実施される年中行事です。地区の若衆（龍勢組）が気田川河原で作った、柳の枝や笹竹で籠をかたどった蛇体を、初節句の家を祝いながら街道沿いに引き回す豪壮な行事です。

滝沢の放歌踊は、先祖の回向を目的に、毎年8月のお盆の時期に地域の初盆宅を回り、念仏踊りで祖先供養をします。江戸時代、三河から引佐を経由して滝沢に伝えられたといわれています。



■日時：8月13日夕方
■場所：林慶寺境内（北区滝沢町）

滝沢の放歌踊



■日時：8月8日夕方
■場所：永泉寺（天竜区水窪町奥領家）

西浦の念仏踊

西浦の念仏踊は、西浦地区の各組で伝承されている念仏踊りです。檀那寺永泉寺に念仏衆が集まり、御施餓鬼踊りをして、初盆の供養をします。双盤・笛・桶胴の縮太鼓の楽で、提灯・太鼓を持って踊り供養します。

編集後記

今年も新しい年を迎えると市内の各地で伝統のお祭りが開かれました。

数百年の昔から絶えることなく、五穀豊穡と世の平安を願う祈りの声は北遠の山谷に静かにこだましているように感じました。そうした営みを聞きつけて、市内の町中からも大勢の方々がおいえになっていました。合併をして大きな浜松市になって以来、その数を増しているように思っています。

旧浜松市には少なかった無形民俗文化財の存在を知り、関心を深めてくれた結果ではいかと思ひ、うれしく思っています。

中世の世界を思わせるゆったりとした時間の流れの中で繰り広げられる舞や楽の音色に引き込まれ、皆さんが喜んで帰られました。今号はこうした様子を特集してみました。

浜松市の民俗文化財として市民と各保存会が共に、お宝を継承していきましょう。

（柴）